

## 令和 7 年度 事業報告書

学校法人 織田学園

### 1. 法人の概要

#### (1) 教育理念

社会に必要とされる人材を育てる学園、  
そして学生が明るく楽しく学ぶ学園を目指します

#### (2) 生活理念

「低賞感微」(低姿勢、賞賛、感謝、微笑)

#### (3) 学園の主な沿革

昭和 22 年 5 月	「文化洋裁教室」を設立
昭和 24 年 11 月	各種学校として、東京都認可校となる
昭和 34 年	織田きもの学院設立
昭和 40 年 10 月	学校法人織田学園認可
昭和 43 年 4 月	「織田調理師専門学校」設立認可、厚生大臣の指定校となる
昭和 51 年 4 月	「おだ学園幼稚園」を設立開園 寄付行為を変更、準学校法人から学校法人に変更 9 月学校教育法の一部改正により、「織田文化服装学院」を「織田服飾デザイン専門学校」に、「織田きもの学院」を「織田きもの専門学校」と改称し、それぞれが専門学校に昇格
昭和 56 年 4 月	「織田栄養専門学校」開校、厚生大臣の指定校となる
昭和 63 年	「織田服飾デザイン専門学校」を「織田デザイン専門学校」に改称
平成 9 年 7 月	織田学園創立 50 周年
平成 10 年 4 月	「織田製菓専門学校」「織田福祉専門学校」開校
平成 14 年 4 月	東京都認証保育所「おだっこ園」開園
平成 19 年 5 月	織田学園創立 60 周年
平成 20 年 4 月	「織田デザイン専門学校」を「織田ファッション専門学校」に改称
平成 22 年 4 月	幼稚園・保育園を多摩市落合に移転し、おだ認定こども園(幼保連携型認定こども園)を開設
平成 22 年 7 月	織田福祉専門学校を閉校
平成 29 年	織田学園創立 70 周年
令和 3 年	「おだ学園保育園」開園
令和 4 年	織田栄養専門学校を閉校
令和 5 年	「織田学園中野高等専修学校」開校

## (4) 設置する学校・学科等 (令和 8 年 3 月 31 日時点)

(単位：人)

学 校	学科・専攻等	収容定員	在学者数
織田ファッション専門学校	ファッションデザイン科	60	28
	ファッションテクニカル科	60	24
	ファッションデザイン専攻科	20	2
	ファッションテクニカル専攻科	20	5
	スタイリスト科	60	31
	ファッションビジネス科	60	36
	マーチャンダイジング専攻科	20	14
織田きもの専門学校	きもの科	50	39
	きもの専攻科	15	6
織田調理師専門学校	調理師科	60	23
	調理技術経営科	80	53
	調理製菓製パン科	60	45
織田製菓専門学校	製菓学科 製菓本科 1 年制コース	20	2
	製菓学科 製菓本科 2 年制コース	26	14
	製菓学科 製菓専科 2 年制コース	24	2
	製菓学科 製菓 2 年制コース	80	14
織田学園中野高等専修学校	調理師製菓科	240	144
おだ認定こども園	1 号認定児 (満 3 歳児から 5 歳児)	160	86
	2 号認定児 (3 歳児から 5 歳児)	87	102
	3 号認定児 (0 歳から 2 歳児)	43	42
おだ学園保育園	0 歳児	6	6
	1 歳児	10	10
	2 歳児	11	11
	3 歳児	11	12
	4 歳児	11	11
	5 歳児	11	9
合 計		1305	771

## 2. 事業の概要

当該年度の事業項目	事業の概要
織田ファッション専門学校	<p>教育面では学生・入学検討者のニーズに応えられるよう検討を重ね、柱となる授業がスタートした。</p> <p>また学生向けコンテストにも積極的に参加し指導・サポートを行った。結果として全国大会での上位入賞を果たした。</p> <p>就職面は、前年度を上回り就職率100%を達成した。就職講座を1年次から体系的に行い、就職に対する意識を高め、担任が個々の要望に沿って面接や書類添削等の指導を行った。</p> <p>学生募集の成果は前年度を下回った。学科により理由は異なるが、技術系の学科は入学検討者の要望に沿うカリキュラムが少なかったことが考えられる。それを踏まえ 2025 年度は新しいカリキュラムをスタートし、積極的に PR を行った。</p>
織田きもの専門学校	<p>教育面では、きもの関連企業とのコラボレーションを実施し、実践的な教育機会を提供した。今年度も東京キモノショーで学生作品展示に参加した。台湾での開催もあり、こちらにも作品展示をし、在校生留学生が、現地でボランティアスタッフとして参加した。</p> <p>就職面では、1年次より就職ガイダンスを行いながら、個々の目標や進路検討状況に応じた就職相談に対応している。就職状況は安定している。</p> <p>学校行事は、ほぼ例年通り実施。全学年での参加行事が多く、学年を越えてのコミュニケーションが深まった。</p> <p>学生募集は、大学進学者が増えたことで伸び悩んでいるが、地方出身者が徐々に回復してきている。</p> <p>例年に引き続き、メンタル面での不調を抱えている学生に対してサポートを行い、保護者との連携を図っている。</p>
織田調理師専門学校	<p>教育面では、それぞれ違う性格を持っている学生の対応は難しいが、その学生に合った指導方法を見つけ全学生に対し上手く対応指導を実施する事ができた。</p> <p>校外実習は就職や社会人になる前の予行演習にもなる良い授業なので継続して行い、良い感触で体得できた。</p> <p>就職面は学生をサポートしながら就職希望者全員が無事に内定を貰い就職する事ができた。</p> <p>学生募集に関しては 2 年制課程が例年通り集まったが、1 年制課程の入学者数は例年より減ってしまった。</p> <p>今年度も食品ロス削減やエネルギー制約など継続して SDG s 推進に取り組み、経費削減にも結びつける事ができた。</p>

<p>織田製菓専門学校</p>	<p>教育面は、例年通りの授業および学校行事を実施できた。また、地域との連携を図り、レンガ坂商店会とアールブリュット展とのコラボ企画として学生が考案したケーキ販売も行い、地域の方々やアールブリュット主催者側からも好評をいただいた。学生からもコラボ企画は充実感があると評価された。</p> <p>就職面では就職率 100%を達成した。今年度は学生の動きだしが遅く心配したが、活動を始めると結果等は順調に進んだ</p> <p>学生募集については、オープンキャンパス参加者数は微減で苦しかったが取り込み率が上がったため入学者を増やすことができた。各教員のスキルをより高め取り込み率を上げたい。</p> <p>食品ロスの削減やエネルギーの制約など、SDGs 推進については学校全体引き続き取り組んでいる。</p>
<p>織田学園中野高等専修学校</p>	<p>開校 3 年目を迎え、3 学年揃ってのスタートとなった。</p> <p>教育面では、調理師教育とクラーク記念国際高等学校との連携による高校教育を併修するカリキュラムを順調に実施することができた。</p> <p>設備面では製菓実習室（理科実験室兼用）を整備し、3 か年にわたり進めてきた設備整備事業がほぼ完了した。</p> <p>新たな試みとして3 年生に対してレストランサービスの授業を実施し、多くの生徒がベーシック検定に合格することができた。食に関連した接遇マナーの基本を学び、国家資格であるレストランサービス技能士を目指す為の基礎学習となる。</p> <p>第 1 期生 3 8 名の卒業生を送り出し、その進路の内訳は就職 9 名、進学 2 7 名（専門学校 2 4 名、4 年制大学 3 名）、未定 2 名（大学受験準備 1 名、進路未定 1 名）となった。</p> <p>生徒募集に関しては、東京を中心に徐々に知名度を上げて来たが、前年度同様に中学校訪問を実施した。より多くの中学校教員に周知を図るため、今後も引き続き実施していく予定である。</p>

<p>おだ認定こども園</p>	<p>今年度は創立 50 周年の年であった。大きな周年行事は行わなかったが、保護者会から周年記念として毎年行っている餅つき用の石臼を寄贈していただいたほか、子ども達へは、「ロバの音楽座」のコンサートを開催していただいた。また創立当時副園長であった小山孝子先生を招き、講演会を開催した。50 年の歴史の中で卒園生が親となり子どもを本園に入園されるケースも増え親子二代で織田学園の乳幼児教育を受けて成長していく絆は今後も大事にしていきたい。</p> <p>園の運営としては、園児数が減少する中新たな収入源として国と東京都の施策である「誰でも通園事業」を試験的にスタートさせた。このことによって新たな利用者が増え、2026 年度満 3 歳児入園へと流れが出来一定の成果が見えている。また、誰でも入園事業の開始準備のための補助金を活用して、床暖房の設置等整備することができた。</p> <p>園全体の評価としては、第三者評価・学校評価を実施した。第三者評価の報告からは、様々な機会を利用して園の持てる力を使い、地域の人との出会いや協働の機会を設けて地域に根差したこども園作りを行っているとの高評価の一方で保護者アンケートから、更に改善が望まれる点として、個々への情報伝達についてあげられていた。十分に言葉では伝えられない乳幼児の言葉を代弁できるような情報伝達の工夫やそのためのシステムの導入について、検討していきたい。</p>
<p>おだ学園保育園</p>	<p>駅から近い利便性もあり、保護者からのニーズは高く、入園が叶わない子どもについては定期利用保育事業を活用し、地域の子育て支援に努めている。</p> <p>教育／保育においては、アート、リトミック、スイミング等、専門性を有する外部講師を取り入れ、子どもの豊かな感性や身体づくりを育むとともに、園独自の特色ある保育を展開し、地域に根ざした園運営を行っている。</p> <p>また、働きやすい職場づくりを推進し、安定した職員体制を維持している。今年度も乳児保育、幼児教育、保護者支援、保健衛生、食育・アレルギー等研修機会を充実させ、職員一人ひとりが内発的動機づけを持ちながら、さらなる資質向上を図っていく。</p> <p>多国籍家庭や多様化する家庭への理解を深め、子ども一人ひとりや家庭に寄り添った丁寧な保育と保護者支援の継続に努める。</p> <p>また、SDG s の視点を踏まえ、「2030well-being (身体的・精神的・社会的に良好な状態)」を意識しながら持続可能な社会の実現につながる取り組みを保育活動の中に積極的に取り入れていく。</p>

以上